子供たちは大満足

サブザック・クラブが　矢谷渓谷キャンプ

三池サブザック・クラブ主催のキャンプ参加者は、八月十六日午前八時三十分、荒尾市の尼ケ島農協前に集合した。

田中精一さん、本田慶二さん、中島晃一さん、森光広さん、工藤光重さんは家族ぐるみ。立山義人さん親子、工藤さんの友人田中健一さん親子と黒田勝儀さん、田中教幸、総勢三十一人。

車七台に分乗し、本田さんが準備した黄色いリボンをアンテナに結び、矢谷渓谷へ向かって出発。渓谷では、先着のキャンプ組がもう川の中で遊んでいる。それを見た子供たちは、気が早やるのか荷物運搬の足も早くなる。荷物が片付いたところで自己紹介と注意事項、日程などを確認する。

夕食準備まで自由行動。昼食には早いがさっそく弁当を開き、着替え場所のテントを張る。二、三人ずつ岩すべりの場所へ駆けて行く。昨年に比べて水量が少ない。それでも岩すべりにはもってこいの水量だ。男の子は最上段から滑り降りて来る。小さい子や女の子は下のすべり台で滑っている。

夕食の準備にかかるころ、森さんが二十センチぐらいのニジマスを釣りあげてくる。夕食はカレーに焼肉。大人は馬刺しで一パイ。適度にまわったところで、中島さんの用意したカラオケで歌も出る。

日が落ちて辺りが暗くなるころ、子供たちを集めて怪談話。その後キャンプ場はずれの駐車場まで試胆会。途中でおどされ「キャーキャー、ワアーワアー」で帰ってくる。度胸試しの後は花火大会。

十七日は午前五時三十分起床。登山準備の出来た者から集合。柔軟体操ののち出発。山にガスが掛かっている。天候を心配しながらの出発だが、みんな元気に登っていく。しかし七合目付近でとうとう雨が降りだした。山頂をあきらめ引き返えす。下山後の岩すべりも残念ながらあきらめざるをえない。子供たちのためにキャンプを早くきりあげ、山鹿の屋内プールに行ったらどうかとの提案があり、冷しソーメンでの昼食を早々とすませ、昼前にキャンプ場をあとにする。

山鹿の屋内プールで約二時間、子供たちは満足したようだった。

今の子供は、同年齢層での遊びで高・低学年が混っての遊びがないとよく聞くが、二度目でもありこのような交流は有意義であったと思う。

楽しい一泊二日のキャンプを通して仲よしになったところで「さようなら」は淋しいが、また会うことを約束して山鹿で解散、それぞれ帰路についた。

（この項・田中教幸）

九月の生活メモ

○…残暑はきびしくても、朝夕の涼感はすでに秋。長月（ながつき）。一日は防災の日、関東大震災記念日。ちょうど二百十日にあたります。地震だけでなく、あらゆる災害に警戒を。八日が白露。この頃から秋気が加わります。十五日（水）が敬老の日で、二十三日（木）が秋分の日。

○…変調気味の今年の天気ですが、夏は短めで、秋の訪れは早いという予報です。前半は西日本を中心に残暑の日がありますが、後半には秋雨前戦が太平洋岸沿いに張りついて曇りや雨の日が多くなり、北日本を中心に冷え込みそう。上陸または接近する台風は三個、南西諸島では五個ぐらいの見込み。

○…夏中使った家具を、カラ拭きし、ハタキをかけ、ネジを点検してから物置に。扇風機、ブラインドなどで水を使えるものは水洗いして。網戸はもう少し残しておきたいところです。

【連合】

特効薬で勇気づく

緑が丘　斉藤清子

夏まけで体の弱っている私に、全国から「三池にまなぶ婦人集会」に参加された若い彼や彼女たちから、暑中見舞と私の体を心配してくれる便りが、特効薬のように舞いこんで勇気づけてくれている今日この頃です。本当にありがとうございます。

川崎市から、子供さんをご主人にまかせて参加してくれた斉藤美佐子さんが、帰ってから報告集会などの活動に参加し、その報告書を送ってくれました。本当にうれしく思うと同時に、あんなにきびしい日程の中で、よくもまあこんなに三池で交流した内容をつかんで帰られたものだと感心しております。

参加した皆さんの中には、三池に行って大きな糧を得ようと参加した人もあったと思いますが、三池の組合員も、主婦たちも、毎日の活動はあたり前のことをしているといって多くを語らないので、もの足りないと思って帰られたのではないかと心配もしました。

多くを語らない人でも、労働者の敵はだれか、私たちの生活や健康をおびやかしているのはだれかをよく知っていますので、来年の統一地方選では全力をつくして、組織の公認・推せんの候補を全員当選させなければと、今から運動をすすめています。

組合員は職場の中で、主婦は主婦なりに一つひとつのたたかいに取り組んで前進するほかありません。

来年は主婦会も結成三十周年を迎えます。あの頃を思い出す時、なんにもわからなかった主婦が、三井資本や三池労組の仲間、全国の仲間のおかげで本当にたくましく成長したものだと、つくづく思います。

今年も、定期大会で行動方針を決め、三池主婦会の運動を全員で確認し、力強く、若い皆さんに負けないようにたたかいます。

岩手の牛島武君、川崎の斉藤さん、元気でね。私も負けないようがんばります。

災害に備えて　ラジオ・燃料・食糧

九月一日は防災の日、備えあれば憂いなしといいますが、お宅はいかがですか。

ライト・ラジオ　さきの長崎豪雨のとき、市内はいっきょに停電して光と情報源を奪われました。乾電池のライトは必備品です。ただしスペアの準備を。最も頼りになる情報源はラジオです。電池を忘れずに。

燃料・食糧　長崎災害のあとガスコンロとボンベを求めて、ちょっとしたパニックが起こったとか、ぜひ点検を。停電すれば冷蔵庫はただの箱。生ものの買いだめでは役に立ちません。インスタントラーメンではなく、乾パン、罐詰などの備蓄が適しています。

短歌

原爆忌

十二分会（三川）　町佳郎

つぎつぎに蟬捕えきてかごに入るる汗たりて子らの休むとはせず
何の名かしまなす蝶の庭に飛ぶを網持ちて子の追いかけゆきぬ
扇風機の速度速めて職新の稿書き進むむし暑き夜を
ぬくき風網戸をぬいて流れくるいねがたき夜を蟬鳴きつげり
戦場をちりぢりになり逃げまどういとけなき乙女らも遂には果てぬ（ひめゆりの塔）
夏たけて高校野球の始まりぬ汗たらしつつラジオ聞きいつ
くるまの点検なしいしがサイレンの鳴れば手ぶくろ脱ぎて黙とうす（広島原爆記念日）
七万の命焼きつくされぬ一瞬の閃光にうからの名さえ呼ぶひまもなく（長崎原爆記念日）
おどろしき黒き雨降る一面の焦土を幽鬼のごとき人群れて歩めり
襤褸（らんる）の衣服おどろの髪あまたなる人はずり落つる皮膚を手もて支えいき
草取りもままにならぎり陽の没るを待ちておもむろに木下に寄りぬ
朱と黄のカンナは爛（た）くる土手沿いに真夏の光もろに受けつつ
終戦の玉音放送も理解（わか）り得ず小学一年なりきわれおさなかりき
もらい来しくわがたに喜ぶ子は籠に入れてしみじみ見つめつつおり
残暑見舞書き終えて寄る窓でしに潜みて聞ゆるチロロ虫の音（ね）

園芸

九月の手入れ

十四分会（三川）　田上勇

春から初夏にかけて主幹や枝などにかけた針金も、すでに枝のクセもついた頃です。早速取りはずして、傷の残らないようにします。ボケやカイドウの植え替えも下旬頃から実施します。みじんを抜いた山土五・腐葉土二・砂三の割で植え込みます。古根や根こぶは切りはなし、徒長枝など剪定します。

カニバシャボテンやシャコバシャボテン類で、春に鉢替えをしなかったり、よく伸びて水の通りが悪く、根づまり状態の多肉植物の植え替えができます。古土を落とし古根を切りつめ、水ゴケまたは山ゴケに十分根を広げて植え込みます。

砂植えの場合は、荒砂にボレーか卵のカラを砕いて三割くらいまぜ合わせ植えつける。これは根から炭酸ガスを出すため用土が酸化します。用土の固まりを防ぎ、空気を保つからです。注意としては春と違い根の切り込みは強く切り込まないように。

平年ですと八月は暑さのために樹木も一時的に成長を止め、花物は花芽をつけ、葉物は葉の組織がかっちりと固まり、九月・十月の植物の肥大成長に向けて準備をしています。

今年はおそ梅雨に加えて八月にもかなりの雨が降り、とくにサツキなどは成長過程にあります。今しばらくは日光に当て植物全体の充実をはかり、九月十日頃を目途に肥料を与えたらいかがでしょう。

モミジやケヤキなど、葉物盆栽で若木の場合油カスだけでよく、完成品には骨粉を二～三割ほど加える。実物花物には油カスに骨粉三割、草木灰一割弱くらいを混ぜると、冬にも強く組織もがっちり固まります。

高温多湿の時はウドンコ病の発生が、高温乾燥期にはアカダニの発生が多いようです。前者にはベンレートを、後者にはケルセンかアカールを散布します。ミノムシは薬剤散布よりも捕殺が一番、ツバキの葉裏にはチャドクガの幼虫が群生しています。切り取り焼き殺します。

花芽分化期

ウメ	8月上～中旬
カイドウ	6月～7月
サツキ	7月下～8月中旬
ツツジ	6月下～8月上旬
シャクナゲ	7月～8月中旬
ツバキ	6月中～7月上旬
ボケ	8月下～9月中旬
フジ	5月下旬

上記は大体の目安です。今年のような気象では多少おくれ気味です。